

Irish Music by Junko Futamura Band. Irish fairy stories and folk tales by Asuko Araki.

金沢市民芸術村 夏のおばけ村 ミュージック工房

レジデントコンサート vol.6

アイリッシュ音楽と語りの夕べ

日時 2018年8月25日(土) 17:00~19:00

会場 金沢市民芸術村ミュージック工房 (PIT4)
金沢市大和町 1-1 TEL: 076-265-8300

料金 入場無料

アイルランドの音楽と物語を体験するイベントです。
夏の終わりの宵、美しいメロディと少し不思議な
妖精の話の聞きにいらしてください。
お子様から大人まで、楽しんでいただけます。
イベントの最後は、バンドと共にジョンライアンズポルカ
(John Ryan's Polka) をセッションします。
フィドル(ヴァイオリン)、笛、鍵盤ハーモニカ等、
ぜひ楽器を持ってご参加ください。

出演

■二村絢子：フィドル

2018年度 金沢市民芸術村ミュージック工房
レジデントアーティスト

■荒木明日子：語り

■藤田陽平：ギター

■佐藤史淳：笛、ガイタ

■山田竜士：パーカッション

■主催 金沢市民芸術村アクションプラン実行委員会

■共催 金沢市、(公財) 金沢芸術創造財団

■制作 金沢市民芸術村ミュージック工房、K-CUBIC



二村絢子



夏の金沢市民芸術村スタンプラリー



Kanazawa Citizen's Art Center
金沢市民芸術村

PIT4 ● ミュージック工房

演奏曲

Sally Gally サリー・ガリー（作曲者 Damien Connolly ダミアン・コネリー）

<Medley>

The Blarney Pilgrim ブラーニー・ピルグリム～Kesh Jig ケッシュ・ジグ～

Drowsy Maggie ドラウジー・マギー（Trad. 伝統曲）

Seebeg and Sheemore シーベグ・シーモア（作曲者 Turlough O'Carolan ターロック・オキャロラン）

Scotsman Over the Border スコッツマン・オーバー・ザ・ボーダー（Trad.）

The Countess Cathleen / Woman of the Sidhe キャスリーン伯爵夫人 / 妖精国の女たち（作曲者 Bill Whelan ビル・ウィーラン）

Jack Coen's Jig ジャックコーエンズ・ジグ（Trad.）

<Medley>

Banish Misfortune バニッシュ・ミスフォーチュン～Irish Washerwoman アイルランドの洗濯女～

Morrison's Jig モリソンズ・ジグ（Trad.）

<セッション曲>

Kesh Jig ケッシュ・ジグ（Trad.）

John Ryan's Polka ジョンライアンズ・ポルカ（Trad.）

※フィドル（ヴァイオリン）、笛、鍵盤ハーモニカ等、ぜひ楽器ご持参でセッションにご参加ください。

※セッション曲の楽譜は芸術村アクションプラン HP の当コンサート告知ページをご参照ください。

演奏

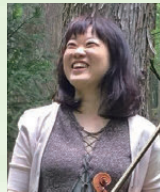
二村 絢子

5歳からヴァイオリンを始める。高校3年時にラジオで聴いたアイリッシュミュージックに感銘を受け、演奏活動始める。

クラシック、アイリッシュ、ポップスなど多ジャンルで活動中。ストリングスアレンジも手がけ、今村つばさ、神山みさ、森薫、瀬下由浩等シンガーソングライターとの共演多数、ライブではパーカッションとコーラスも担当する。名古屋出身、金沢暮らしを経て、現在は東京都日野市在住。

これまでに近藤フミ子氏、寺下祥子氏、古井麻美子氏（中部フィルハーモニー交響楽団）、小杉芳之氏（読売交響楽団）に師事。金沢市音楽コンクール第1位。

2018年度 金沢市民芸術村ミュージック工房 レジデントアーティスト。



佐藤 史淳

アイリッシュフルート（現在の金属製フルートのご先祖様）、ティンホイッスル（リコーダー）、ガイタ（スペインのバクパイプ）を担当。

中学の吹奏楽部でフルートを始め、大学時代にラテンジャズバンドに参加したことをきっかけに、民族音楽に傾倒。フォルクローレ、ルーマニア音楽、ロシア音楽等、各地の民族音楽の演奏を経て、現在は北陸を拠点としてアイルランド、スペインのガリシア音楽を中心としたケルト音楽の演奏活動を展開している。

演奏のみならず作曲・編曲も手掛け、パブや各種イベントで精力的に演奏、またスタジオミュージシャンとしても活躍している。名古屋出身、富山市在住。



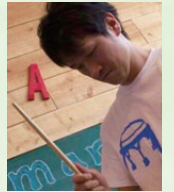
山田 竜士

パーカッション担当。

学生時代にドラムを始め、26歳でカホンと出会う。その後、打楽器のみで演奏を行うパーカッションパフォーマンスユニット「Soi Soi（ソイソイ）」へ加入し、カホンに加えコンガやジャンベといった皮ものの民族楽器を用いた演奏へ傾倒してゆく。

現在は「Soi Soi」の活動と並行して複数のユニットに加入し、地元富山で活動するアーティストのサポートも行っている。

その活動の中でアイリッシュ音楽と出会い、アイリッシュ音楽におけるパーカッションを模索し、自身の演奏に積極的に取り入れている。富山県在住。



藤田 陽平

15歳からギターを始める。10代の頃はロックやパンクに傾倒していたが、あるとき the pogues というアイリッシュパンクバンドに感銘を受けアイリッシュ音楽に目覚める。

とあるライブ会場でアイリッシュ音楽好きと出会い、石川県で珍しかったアイリッシュバンド（amber forest）に参加、金沢市内のカフェやイベントで精力的に活動していた。

その後、バンド解散に伴い上京し、東京都内でソロ活動やライブサポートを続けている。富山市出身、金沢生活ののち、東京都国分寺市在住。



ひとり語り

「妖精の丘が燃えている」出典：こぐま社『子どもに語るアイルランドの昔話』渡辺洋子・茨木啓子編訳

「卵のカラの酒つくり」「白いマス」出典：福音館書店『イギリスとアイルランドの昔話』石井桃子編訳

語り

荒木 明日子

1967年金沢生まれ。県立工業高校デザイン科卒業。グラフィックデザイナー、イラストレーターを経て本蓮寺・寺庭婦人となる。

3人の子育てをする中、「昔話の語り」と出会う。「語り」の中に普遍的なメッセージを感じ、より多くの人に語りの魅力を知ってもらおうと、2014年金沢弁で昔話を楽しむイベント「金沢昔語り」をスタートさせる。以来、グリム童話や、日本の神話、「蜘蛛の糸」といった文学作品など様々なジャンルに挑み、音楽や舞踊、映像など様々なアートとのコラボレーションを実現。近年は古典文学を語りに適したテキストに書きあげ、「安寿姫と厨子王丸」「耳なし芳一」など、オリジナルな語りの世界を追及している。雑誌『加能人』にイラストエッセイを連載。アメブロ「荒木明日子の着物語り」も好評。

